

Title	復刊の辭
Sub Title	
Author	橋本, 孝 (Hashimoto, Takashi)
Publisher	三田哲學會
Publication year	1951
Jtitle	哲學 No.27 (1951. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000027--003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

復刊の辭

わが「哲学」が三田哲学会の機関誌として創刊されたのは、大正十五年であつたから、すでに二十有余年の昔のことである。その頃の我が国は、底流にはいろいろの難問題が伏在していたが表面は如何にも華やかな呑気な時代であつて、われわれ学究は、所謂「象牙の塔」に立て籠つて悠悠思索と研究に専念することが出来たのである。事実「哲学」の創刊号は、われわれの予想以上の売行を示し、会員の如きも一時は四百名を超えたことすらあつた位である。毎月開く例会はともかく、春秋二期の公開講演会は多数の聴衆を集め、なかなか盛大であつた。

他方機関誌「哲学」は年二回の刊行を建前とし、毎号二百数十頁を目安に編集され、多少の遅延はあつたが中断されることなく刊行されていつた。しかし昭和十三年突如として中国の一角に事変が勃発し、戦局が中国全土から更に東亞各地に擴大するにつれ、我が国の上下は一切を挙げて戦争一本に統制され、青年学徒はペンを捨てて戦場に走り、最早象牙の塔に立て籠つて悠悠研究や思索に専念することは許されなくなつた。否学問の研究そのものすら挙げて戦争の道具と化するに至つた。況やわが機関誌の刊行の如きは、自然中絶の憂き目に逢わざるを得なかつたこと

は云うまでもない。

しかし昭和廿年八月十五日我が国の全面的降伏を以て戦争が終結したとは云え、物心両面に亘る敗戦後の混乱と困窮とは容易に機関誌の復刊を許さなかつた。勿論あらゆるものを破壊し奪い去る貪慾飽くなき戦争と雖も、われらの胸奥に深く根ざす真理思慕の念を根絶する訳には行かなかつた。戦中戦後を通じ断続していたわれわれの研究活動は、恰も灰燼の中から飛び立つフエニツクスの如く、壊滅に頻した社会の秩序と生活がようやく安定するにつれ、漸次活発旺盛となり未だ必ずしも出版情況が好転したとも云えない今日、幸ひ同人諸君の異常な努力によつて、ここに機関誌「哲学」の復刊を見ることが出来たのは、われらの無土の喜びとするところである。われらは此の機会に同人諸君の一層の奮起を祈念して復刊の辭を終りたいと思う。(一九五一・四・三〇)

三田哲学会会長 橋本孝